



Handwritten text on a small white label, possibly a title or author's name, though it is mostly illegible due to fading and bleed-through.

特別
14
696
167





696  
167

宣統元年九月庚午連  
精之利微也 作可之帝命

二年五月准 會新  
大振之日之早

一 元祿十丁丑年六月廿日帝  
命

貴

一 佛之家方曰子方甲

公義我山禮之山初之別  
好元之空之通傳之生  
了中





公義所記... 公中達事

附右... 公中達事

一 公義所記... 公中達事

一 公家... 公中達事

一 日光... 公中達事

一 年... 公中達事



作者

增之寺誰指院誰書寺  
竟王院今地院傳每院

之寺元五原之五原

山

書世無婦子之山留寺在  
之原大山寺也

之寺元五原之五原

書世無婦子之山留寺在

新書田以布

之寺元五原之五原

之寺

法眼之常師元

自之後方之附元

之寺元

傳志之方原之五原

之寺元

之寺元五原之五原

山寺院書以山留寺在  
林寺書世無婦子之山留寺在  
之寺元 之寺元



且去  
右外以没人 昔元帝後  
持人 常所元儒志元

一 常一為之也 此亦方之也  
百有之也 但身方之也 此亦  
深亦之也 元九之與法亦  
者以則日 律志之也 此亦  
一 若知勤之而 其也此亦  
之知也 所元之也 此亦  
左方亦之也 此亦  
了也 此亦

一 此亦

被知亦之八律志之也

右之也 亦中律相也

六月廿五日

一 此亦

公義向之 此亦  
此亦  
律志也 此亦  
乃之也 此亦  
此亦



萬事皆由心造  
心念微動事即隨之  
心念微動事即隨之  
心念微動事即隨之

尾張中納言殿  
山崎宗信

白  
家老平之使

今度法橋為殿  
先列之成  
山崎宗信

為平之使  
山崎宗信

家司

成永年人  
安  
中山海前

西之家  
中山海前  
一筆  
尾張中納言殿

月



象司

謝反

一松年如賀吉書題

号札改淨人

公方標 大綱極言機練

能文為內山標新以復之

月日錄之標之號以復而

以復而月日錄之標之號以復而

以復而月日錄之標之號以復而

以復而月日錄之標之號以復而

年

月  
松年如賀吉書題

一筆改淨人

年人

一休將 少將

去札改淨人

公方標 大綱極言機練

能文為內山標新以復之

月日錄之標之號以復而

以復而月日錄之標之號以復而

以復而月日錄之標之號以復而

月

松年如賀吉書題

号札改淨人

公方標 大綱極言機練

能文為內山標新以復之



一筆致信上

八二四半

一侍從

生約段

平札致信上

公芳稱 大御所之御掛書

少半致信上 御掛書

平札致信上 御掛書

平札致信上 御掛書

平札致信上 御掛書

平札致信上 御掛書

平札致信上 御掛書

松平忠重

少段

一筆致信上

平札致信上

平札致信上

月

少半致信上

少段

一筆致信上

八二四半

右侍致信上

御掛書

平札致信上



或其人... 怪... 方... 定...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

月...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...

一 宗... 國... 大... 拔... 腔... 筋... 筋...



少... 有... 以... 為... 年...  
... 承... 承... 承... 承... 承...  
... 承... 承... 承... 承... 承...

少...

一... 承... 承... 承... 承... 承...

光... 承... 承... 承... 承...

公... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

月...

招... 承... 承... 承... 承... 承...

一... 承... 承... 承... 承... 承...

人... 承... 承... 承... 承... 承...

一... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

林... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...

... 承... 承... 承... 承... 承...



月日

同月  
少  
五  
陸  
內  
大  
山  
中  
松

一

右

年  
指

山  
以

月日

自  
節

通

一

其

如

法

个

三

以



山中行記

公孫孫 大風掃落葉  
山行記 記  
山中行記 記  
山中行記 記  
山中行記 記  
山中行記 記  
山中行記 記

月。

山中行記

山中行記 記  
山中行記 記

山中行記 記  
山中行記 記

月。

山中行記 記

山中行記 記

山中行記 記  
山中行記 記

月。

山中行記 記  
山中行記 記

月。

山中行記







山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

月日 山島 山島

山島

### 一六 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

山島 山島 山島

月日 山島

山島

山島

山島



一 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

月 片

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎



符文瀆抄第一編之つとま  
あはれおのりあふとけり

月。

抄平をばあのか  
に

一 中傳の事かご云致

山神をねる

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

月。

中傳の事かご云致

一 山神抄の事かご云致

山神をねる

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

月。

抄平をばあのか  
に

抄平をばあのか  
に

月。

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に

まきね 大國をばあのか  
に



之礼佛公入心

月。

出若松園の心

一 藤原

藤原

山竹を以て之を水に於て之を煮

中納言

公孫孫 大國孫孫高徳孫孫

之の孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

月。

龍王寺院 山竹

乃之孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

月。

山竹

山竹

山竹

一 藤原山竹 山竹

乃之孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫孫

月。

山竹

山竹

山竹



一 桐陰堂 日記

山竹の葉を以て年以て而依  
る者多し其の根葉二揃らば  
早急なる為なり

月日 片名

桐陰堂 日記

山竹の葉を以て年以て而依  
る者多し其の根葉二揃らば  
早急なる為なり

日記

月日 片名

桐陰堂 日記

山竹の葉を以て年以て而依  
る者多し其の根葉二揃らば  
早急なる為なり

月日 片名

桐陰堂 日記

一 光貞日記

山竹の葉を以て年以て而依  
る者多し其の根葉二揃らば  
早急なる為なり

月日 片名

桐陰堂 日記

山竹の葉を以て年以て而依  
る者多し其の根葉二揃らば  
早急なる為なり



一 宛有之象其う及也致

一 善師の言致

一 為郭其言高き之象其言

一 善礼好交相致人の礼と云

一 子高き言と云

月。 片名

上林書

上林又言致

以与人心似其言言

今致也

上林書

一 為子〇致高き言致

一 善有之象其礼致言致

一 善有之象其言致

月。 丹 田

上林書

一 以言致言致

一 其礼好交相致人の礼と云

一 子高き言と云

一 上林書

一 為子〇致高き言致

一 善有之象其礼致言致

月。 片名

上林書

一 為子〇致高き言致

一 善有之象其礼致言致



為子以佳矣  
予亦以此書  
於此年  
於此年

月

茲林道也

一 舊書檢校

是到刊列

作中為記

列入本年抄本也

傳記也

收書也

一 舊書檢校

以上書也

以上書

此書也

此書也

中書也

月

行卷子

舊書檢校

一 舊書檢校

中書也

此書也

此書也

此書也

此書也

此書也



吾身非之也 此之謂也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也

月。

汝亦非之也 汝亦非之也

汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也

月。

汝亦非之也 汝亦非之也

右何自之也 汝亦非之也

吉川瑞之也 汝亦非之也

汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也

月。

吉川瑞之也 汝亦非之也

汝亦非之也 汝亦非之也

汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也  
汝亦非之也 汝亦非之也



五子... 月。

月。

吉川...

一印...

山...

...

...

月。

...

一山...

...

山...

...

...

...

月。

山...

文...

...

山...



公方稱大綱... 先以中... 山自見... 好... 山... 然... 昔...

月。

張...

山村...

...

山... 今...

... 一... 昔...

月。

張...

...

... 一... 倍...

...

...

月。

...

...



一 隆昌万石以二万石中下是者  
也休也本一将一且者一也故  
也

此乃公加少元正者也故也

一 隆昌万石以二万石中下是者  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也  
万石中下是者中下是者也

一人一使也一将也一也  
中下是者中下是者也

一 隆昌万石以二万石中下是者  
中下是者中下是者也  
中下是者中下是者也  
中下是者中下是者也

一 隆昌万石以二万石中下是者  
中下是者中下是者也  
中下是者中下是者也  
中下是者中下是者也

中下是者

一 隆昌万石以二万石中下是者  
中下是者中下是者也  
中下是者中下是者也  
中下是者中下是者也



月。

片石字

誰友

一所用蓮山人持筆而寫之山景  
及之云

此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為  
右之節之末有字於卷末冬山為  
乃其結

一第其之結  
月之末

月之末  
此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為

此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為

此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為

右之寶永末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為  
此卷之末有字於卷末冬山為

卷上三力

一五孫家



有司教

近清教

九條教

二條教

一條教

改園白教為年改出教

山書第一卷海學志

古海山古定歌渡達

月

月

有司教

山林之教

改進清若園白教

近多之海學

改九條教

朝山仁務

改三條教

山書丹海

改一條教

修河清

一親生家

仰見教

右柳川教

系務教



你便是我你而今能之  
今友相与休言利刃  
似有之難之休言利刃  
紙也之之亦常而歷而  
之之懷之之之也

月。  
若以之為之也

依至極處以  
之室我部之備及  
依有極川地  
外山堡門控依及

今及之何得將及之直其官  
也方首尾能斷其和也  
依是為以滿收之官也  
之也其目也其年也其也  
之也依依也其也其也  
之也其也其也其也其也  
宜欲清之也其也

月。  
若以之為之也

一清苑  
天款所門  
特法極  
華平



久我

彦博

花山院

德大寺

西園寺

醍醐

大倉右衛門尉宗泰

長祿致遠之為事以發

皇初一志以物市之書原

也於海子

月

菊亭在府殿

收指法輪教部以長致遠見以

又由云云出後由之也

仕於文正山書力國海子

而治事也庭西以宮室之儀

皇初之也

月

西寺花海子

一傳奏

柳永

子師

長祿致遠之為事以發

皇初一志

也於海子



正人の会合の儀由りて水加  
和治中後志留清く

月日

柳宗元の儀

三野宗徳の儀

一吉田二位

少輔令治人白為之儀

少輔令治人白為之儀

三野宗徳の儀

上野宗徳

月日

吉田二位

一吉田二位

少輔令治人白為之儀

三野宗徳の儀

少輔令治人白為之儀

三野宗徳の儀

上野宗徳

月日

吉田二位

一吉田二位

少輔令治人白為之儀

三野宗徳の儀

少輔令治人白為之儀

三野宗徳の儀



仁和寺殿  
 妙法蓮華殿  
 聖護國寺殿  
 照三宮殿殿  
 曼殊院殿  
 大覺寺殿  
 報恩院殿  
 吉蓮院殿  
 三寶院殿  
 大正院殿  
 永海院殿  
 改撰并敷出書致淨宗依

今有押之條目利到可  
 仍舊雜之任令各條  
 及入以名以城而之止  
 此等也存不以此等之  
 之

月日  
寺家大和

改一宗院殿  
 四條系刑部  
 改新修寺殿  
 山口志麻呂殿  
 改好法院殿  
 善谷或部之



崇禎後錄

波子出京時

從曼殊院錄

子將刑部

從大定寺錄

也路井大

從善道院錄

之在由

依仁和寺錄

投是今

建利

依自

鐵函

月

善提院

依和恩院

光

依西海院

寶器院

御書

山及

依入



永第...  
漢...

月

大...

...

三...

...

一...

...

...

...

...

月

...

...

...

...

...



漢書卷之六

月日

漢書卷之六

昔者漢之興也  
高祖皇帝  
臨天下  
漢書卷之六

月

漢書卷之六

一自心亭

專修亭

佛光亭

蓮花亭

送商

先乳收淨其

公孫 大國孫 益國孫 好

一國 孫 益國 孫 好

孫 益國 孫 好

一國 孫 益國 孫 好

上境 孫 好

月日

自心亭

寺

先乳收淨其  
公孫 大國孫 益國孫 好  
一國 孫 益國 孫 好  
孫 益國 孫 好  
一國 孫 益國 孫 好  
上境 孫 好



山藏西... 住承他... 是...  
健... 亦... 亦... 亦...

月...  
專修寺  
其例

其札致... 是... 今... 其...  
其... 亦... 亦... 亦...  
其... 亦... 亦... 亦...

月...  
蓮華光院  
佛光寺  
其例

一... 光... 亦... 亦... 亦...  
今... 亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦... 亦...

七月二...  
任解院  
漢法院

亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦... 亦... 亦...



持家親家 後元 出海

一家司

香司殿

山林之院

牧之河之院

神田之院

三橋大隅

近江殿

進之院

今之院

進之院

今之院

進之院

一條殿

進之院

伴之院

入心之院

羅波大

九條殿

朝山之院

石井之院

入心之院

信濃之院

入心之院

二條殿

入心之院

大寺之院

中寺之院

小寺之院

津幡之院

右木之院

小寺之院

右橋川殿

入心之院

外山之院

夫之院

右木之院

中寺之院

伏見殿



友上人

善心育痛

中川長款痛

三木秘學

津西寺控記

三木長款

津田田史

系極殿

厚上人

長尾長款痛

中川長款痛

中川長款痛

中川長款

若木長款

大教山門

山中長款

第...年

山中長款

若木長款

中川長款

石田長款  
久我

中川長款

石川長款

若木長款

廣懷

若木長款

上田長款

花山院

若木長款

中川長款

山中長款

石川長款

松山長款

傳天寺

物長款

若木長款

中川長款

若木長款

若木長款

中川長款



西園寺

西村和泉

幸和出雲

濱田日守

醍醐

堀河

三條

伏見

馬場

平家

丹波

三好

三好

一乘

二條

三條

三條

新修

山田

山田

山口

仁和

三條

一條

三條

三條

三條

一條

三條

三條

三條

三條

田原

三條

三條

三條

三條

西園寺

三條

三條



照之渡殿

岩波大進

近之入

曼殊院殿

子將之

山本之

田本之

大是寺殿

野田之

井之

中野之

智恩院殿

園之

近之入

岩波大進

子將之

西地之

野田之

井之

岩波勲員

角田

音達院殿

寺之

寺之

三寶院殿

平井之

津田之

大寺院殿

松井之

多川之

西坊院殿

西坊院殿

近之入

北村將監

安之

南院

海部院



西中類寺

下河大進

比田之院

上系經書

前田之書

東中類寺

七里大寺

宗澤大進

石井年人

早先河内海

櫻伽院

信解院

護法院

大西之内

吉川大進

万里大進

岩本大進

蓮花大進

吉田信書

園田信書

寺社

一坊上等大進

貞卷大進

聖洲大進

成滿院大進

護持院大進

護國寺大進

芝生院大進

全之出院

傳通院

凌雲院大進

蓮花院大進

右之知事石依何事之札

後之知事石依何事之札

一高用向之使信其書之

坊之年自卷聖洲成滿院

護持院上之使信其書



一增正

年始而前与年言是礼

月之書也

他日之書也

節之書也

為之書也

之書也

月之書也

依從信正

接

今及相之依也

作并之書也

為之書也

月

依從信正

月

依

才進信正

一增正

其書也

之書也

一增正

此之書也

之書也

一增正

其書也



与子为之一笑

以和之氣後有唯唯之氣

一紫衣

淡竹大德院

十八箇年檀林

岩城寺移年

大波寺通年

寺屋門首

志雲新藏四寺

山之園寺

妙心寺流四寺

上野設有

比之中心寺

中山法華經寺

新田高將寺

湯島寺五寺

牙一海松寺

院家

右之類

右之類

口上之

為事以之被刺少年  
了之為之乳符符各  
以

月。

口上之

他自之乳符符各  
以事以之乳符符各  
為之乳符符各

月。

一印之圖年

三印之圖年

久堂流符符

中門流符符



東國流儀	勝流儀
系傳流儀	時流儀
西中流儀	三田流儀
上流儀	上流儀
増上流儀	増上流儀
直言古義	
右	
為	

為事以收初年儀  
 月

他國流儀  
 單儀  
 三田流儀

一石  
 月

増上流儀  
 門  
 西中流儀  
 上流儀  
 増上流儀  
 直言古義  
 右  
 為



一 社之 社家者其文

山中其文

右之其文

以上其文

為其所以而後之其文  
其所以而後之其文  
其所以而後之其文

月

斤名其子

其文

其所以而後之其文  
其所以而後之其文

其所以而後之其文  
其所以而後之其文

其所以而後之其文

其所以而後之其文

一 社之 社家者其文

一 社之 社家者其文

其所以而後之其文

其所以而後之其文

一 社之 社家者其文

其所以而後之其文  
其所以而後之其文  
其所以而後之其文

月

社之 社家者其文



知恩院大僧正

公方御意... 先以... 子... 御... 一...

六月

知恩院大僧正

知恩院大僧正... 御... 一...

知恩院大僧正... 御... 一...

八月

知恩院大僧正

知恩院大僧正... 御... 一...

九月

知恩院大僧正

知恩院大僧正... 御... 一...



其為之令好之改年

其為之令好之改年

公孫指大洞極其山極極其

溪山清之極其年之年

好又之令山極其年之年

好又之令山極其年之年

好又之令山極其年之年

好又之令山極其年之年

二月

新造院前大信正

新造院前大信正

一勝仙院前大信正

其為之令好之改年

其為之令好之改年

其為之令好之改年

其為之令好之改年

其為之令好之改年

其為之令好之改年

其為之令好之改年

其為之令好之改年

二月

勝仙院前大信正

一若生之令好

其為之令好之改年



公孫孫大綱... 山... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...  
... 樓... 廣...

六月

若... 子... 四...

一... 山... 子... 大...

... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...

... 山... 子... 大...

二月

... 山... 子... 大...

一... 山... 子... 大...

... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...  
... 山... 子... 大...

三月

... 山... 子... 大...



一 知積院傳心

山札今春意深

公方稱大德操是為

其德也

其德也

其德也

其德也

其德也

八月

知積院傳心

一 仙那院傳心

山札今春意深

公方稱大德操是為

其德也

其德也

其德也

其德也

十月

仙那院傳心

一 仙那院傳心

公方稱大德操是為

其德也

其德也

其德也



劉宗周手書

二月

長安守備劉宗周

弟等奉命督領在清江浦  
首尾相顧各守其地  
仰上之命以守其地  
仰上之命以守其地

九月

長安守備劉宗周

劉宗周手書

田中守備 四年

一 職守守備劉宗周

弟等奉命督領在清江浦

弟等奉命督領在清江浦

弟等奉命督領在清江浦  
弟等奉命督領在清江浦  
弟等奉命督領在清江浦  
弟等奉命督領在清江浦  
弟等奉命督領在清江浦

二月

長安守備劉宗周

弟等奉命督領在清江浦



昔者余念其海内之故  
其之於中則必先其  
其之於外則必先其  
其之於內則必先其  
其之於外則必先其

二月

是月院持信上  
四披

一月山上遊院

昔者余念其海內之故  
其之於中則必先其  
其之於外則必先其  
其之於內則必先其  
其之於外則必先其

昔者余念其海內之故  
其之於中則必先其  
其之於外則必先其  
其之於內則必先其  
其之於外則必先其

二月

山上遊院  
四披

一月山上遊院

昔者余念其海內之故  
其之於中則必先其  
其之於外則必先其  
其之於內則必先其  
其之於外則必先其



正月

京都元五年

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

京都元五年

公方梅道...  
此後...  
出教...  
看子...  
身...  
身...

正月

二月

三月

四月

五月



公孫林大刺梅生高城歸  
山歸年一由海寺之東修之  
身赴山寺喜言為之定

十月

并地入寺寺四寺

苦善令堂海

公孫林大刺梅生高城歸  
山歸年一由海寺之東修之  
身赴山寺喜言為之定

三月

并地入寺寺四寺

大山

山札令堂海令及物言後  
物言後物言後物言後  
物言後物言後物言後  
物言後物言後物言後

十月

南祥寺

相國寺

建仁寺

東福寺

高壽寺  
四寺



一 莫染山 四 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年  
昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

公昔標名 瑞年 瑞年

當夜 瑞年 瑞年

山 瑞年 瑞年

二月

百瑞年 四 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

七月

百瑞年 四 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

七月

百瑞年 四 瑞年

一 多 瑞年 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年

昔者今念 滄海桑田 言 瑞年



一 遊行上人  
山行記  
公孫樹  
高  
去  
門

二月  
不動院

一 遊行上人  
山行記  
公孫樹  
高  
去  
門

山行記  
公孫樹  
高  
去  
門

遊行上人

一 遊行上人  
威德院  
大台院

山行記  
公孫樹  
高  
去  
門

二月

山行記  
公孫樹  
高  
去  
門



芳名... 改...  
... 改...  
... 改...

二月

... 田...

... 改...  
... 改...  
... 改...

二月

威... 改...

... 改...  
... 改...  
... 改...

二月

... 改...



一 殺再院

昔皇太子之薨也、  
郭公之薨也、  
山平之薨也、  
親王之薨也、

四月

殺再院

四子

一 京治の成院

昔皇太子之薨也、  
郭公之薨也、  
山平之薨也、  
親王之薨也、

四月

成院

昔皇太子之薨也、  
郭公之薨也、  
山平之薨也、  
親王之薨也、

四月

金剛院



二三野山亭院

昔礼之按卷公为海内名

山庄例以诗书礼易春秋

二卷破之由海亭山院

升秀之观花一束二午

之商之玉斗之一子之

二月

三和山

二十三院

一竹

昔礼之按卷公为海内名

山庄例以诗书礼易春秋

二卷破之由海亭山院

升秀之观花一束二午

之商之玉斗之一子之

二月

三和山

二十三院

一竹

昔礼之按卷公为海内名

山庄例以诗书礼易春秋

二卷破之由海亭山院

升秀之观花一束二午

二月

三和山

二十三院



一南朝四聖師

昔者皇金嘉備以朝古之聖  
中綱以千之元正之原誠以  
之身以授二月書事之其書  
沈歷危殆也南之其也其也

三月

四聖師 四聖

一八幡聖之聖師

昔者皇金嘉備以朝古之聖  
公方極大綱極其也其也  
其也其也其也其也其也  
款也其也其也其也其也

山莊古板其也其也其也  
其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也

五月

昔者皇金嘉備以朝古之聖  
公方極大綱極其也其也  
其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也

八月

八幡 皇金嘉備以朝古之聖



於之月分初修而孔未及  
御上之山

首身全善

公方極大德修其善而誠增其  
德而德之收其善也然其能  
而所以八情善而所以行德  
也此其收其善而所以行德  
也此其收其善而所以行德  
也此其收其善而所以行德

九月

八情

豐島坊

芳皇全善

公方極大德修其善而誠增其  
德而德之收其善也然其能  
而所以八情善而所以行德  
也此其收其善而所以行德  
也此其收其善而所以行德  
也此其收其善而所以行德

三月

八情

豐島坊

一河別傳之五通年

其善全善  
公方極大德修其善而誠增其  
德而德之收其善也然其能  
而所以八情善而所以行德  
也此其收其善而所以行德  
也此其收其善而所以行德



古林時後... 寺堂

三月

未定年回京

一八情謝何升坊

廿五... 山新... 此... 藥... 此... 此...

三月

關他井坊 四章

一六政而大苦院

苦... 公... 此... 此... 此... 此...

三月

去... 四...

一... 山... 此... 此... 此... 此...



丙午年冬

月

惟覺院修白

日名

丙午年

回

回

山道札令書通

山道札令書通

山道札令書通

山道札令書通

月

是

大書院

觀之院

回

日名

一山抵乙到寺

阿列通序

山道札令書通

山道札令書通

山道札令書通

山道札令書通

十月

乙到寺

回

一東入年

山道札令書通

山道札令書通



作身はるる何れか其の自布  
云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々

十月

東大寺奉詠

法隆院

口伝云

古如院

上野

東大寺

法隆院

古如院

云々

一 仁徳寺の光院

郭書云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々

公方孫 石細云云云云云云

印波傳云云云云云云云云

云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々

一 乃心寺



山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久

山崎 松久



一 回造水磨  
回造水磨

一 清信神

才乳令按是古制子乳  
其厚斗地物上以乳  
此多乳者一待其乳  
此物之乳者其乳

二月 行若字

冰室五乳

一 派活神

其乳令按是古制子乳  
其厚斗地物上以乳  
此多乳者一待其乳  
此物之乳者其乳

二月 行若字  
派活大乳

一 春木

才乳令按是古制子乳  
其厚斗地物上以乳  
此多乳者一待其乳  
此物之乳者其乳

二月 行若字

山字



車乳令投各

公方林大内... 夜... 二... 始...

二月

春本... 夏...

山... 夏... 秋...

耳乳令投各

公方林大内... 夜... 二... 始...

庚... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

九月 十月

冬... 春...

耳乳令投各

公方林大内... 夜... 二... 始...

十二月 正月

山... 夏... 秋...



一 目錄

本札之抄

公方稱大國稱意而後實

公為公之信也

則軍水於一石千張一折

公之信也

二月

中

一 若照院增名元

及

一 書致上仕

山

公言棟立

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山



在摩訶山名勝地心同歸之  
拜受仕重事每深幸也  
石橋為常之記取此如新  
山麓猶存形後音之時彼  
也惟謹云

善忠院

三月廿二

祖縁

井内内守様 全中

念也院下使ふ口之

善忠院地老

相辨依修付取及之  
山内之山内守様 謹言

善之口出於善忠院  
此山内守様之申上之  
右之場老之各令之  
念也院下使ふ口之

一徳川内守様

口上是也

此及日光より山内守様  
之口出於善忠院  
之口出於善忠院

之口出於善忠院

徳川内守様



一印教寺 鄒司

以上卷

明之山人本持方集  
秋清年似醉一  
其後中入公

五月廿 斤若字

雲津右之  
竹林為之  
少字法影足

十八箇寺檀林

增上寺

傳通院

光明寺

大光院

弘經寺

常福寺

大舍寺

乐游寺

善壽寺

靈巖寺

弘經寺

淨園寺

靈山寺

蓮馨寺

大巖寺

瞻乾寺

情隨院

大岳寺

三子野門首

寶性院

無量壽院

真言新義四箇寺



長安寺  
福壽寺  
海鏡寺  
根生寺

山三箇寺

龍橋寺

大甲寺

妙心寺

東禪寺  
禪祥院

海禪寺  
松源寺

上池院

櫻協院  
俗解院

護法院

總泉寺  
音松寺

泉岳寺

三原寺

日行人方

久遠寺

陽林寺  
苦五寺

宗地寺

中門寺

船燈寺  
東康教寺

報恩寺  
奉教寺

勝者流

慶平寺

系佛老



海州教場寺  
一正德寺

昭宗於此被殺

法京  
日輪寺

西本願寺瑞壽

東本願寺瑞壽

三田池寺同尊後寺福院

唯念寺  
法泉寺

稱念寺

東叡山山別當

於渡御所宮別當

大藏院山佛殿別當

巖右院山佛殿別當

常安院山佛殿別當

坊上寺山別當

台座院山佛殿別當

安眼院

安立院

佛心院

安勝院

通至院

增寺所化没寺

日寺家没寺

真三云古長寺同寺

般若院

八大坊

登瑞寺

金剛院

莊嚴院



老中連判書書大板

一 御三家

定前家司及

御書致淨是也

ては渡邊下也

一 松平如實中 宰相

殿 一 卷 致淨是也

山北致淨是也 下山安也

也 是也

一 中将

殿 山北致淨是也

下山安也 是也

也 是也

一 少将

殿 一 卷 致淨是也

山北致淨是也 是也

下山安也 是也

一 侍從

殿 一 卷 致淨是也

山北致淨是也 是也

下山安也

一 目録

殿 一 卷 致淨是也

山北致淨是也 是也

下山安也 是也



一 瑞雲

在石

一 修徳

何に致すは是れ修徳の所

こゝに合

一 石

名に修徳

一 石

修徳は石の所

一 石

御之

大石

交代

及一石

下石

石

石

一 石

石

石

石

一 石

石

石



井之口

十松平清盛

治承文三十三万石以上

石

信濃守

船

十松平清盛

一福子紙

信濃守

素白 上包

一百石

日暮

半松平清盛

林書

山松平清盛

敷屋

別後 上貨

時

三月

徳吉

庭田

足船

治承

松平



コヒンエツ  
御後様  
上質化程  
後平之暗忠記

二月

御大守  
庭田前

長柄波神  
井上  
所感  
及上  
右

三月

御大守  
庭田

一  
改元  
及  
御  
庭田

七月

御大守  
庭田



此稿致師在令度即中凡  
以稿能為以致候

林書表 信之 以水師程等  
肖員錄之 道然 以之

少後為

即感收之 女之 房之 事之  
上院 在 卷  
卷

八月

他大寺

庭四

其稿致師在令度即中凡

少稿能為以致候

也院 以水師程等 肖員錄

之 道然 以之

少後為

即感收之 女之 房之 事之

八月

他大寺

庭四

其稿致師在令度即中凡

以稿能為以致候

林書表 信之 以水師程等

肖員錄之 道然 以之



山莊子抱道之仙  
上覽少仙之品也  
是也 叙國之君臣

八月

聖  
仲山甫之教  
裴君亦滿殿  
石野之教  
屏井之教

定之山者

國公 林之長 法之  
山哀情也 君之

至好也 依而後如  
名能得之

九月

友傳卷

其物被清之入  
至之山 攝攝

也也

即後 行

叙國之 山

上之 山

上之 山

十月

友傳卷











田代

上

四月

松本後園殿

大正

御書致す

御書

公方

御書

上

二月

松本後園殿

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

二月

御書



親王

為侍從... 上國...

二月

若...

...

...

...

...

二月

...

...

...

...

...

...



望之漢道也

三月

至北之春候也

乃物象在問文云

其物致淨之冬令也

物使而事向之冬令也

其象年也

示之也

上因也

上因也

四月

傳人等在春候

問文云

春田前大綱也

其化致淨之冬令也

其使也

東國前大綱也

其物致淨之冬令也

其使也

其物致淨之冬令也

其使也

其物致淨之冬令也

其使也



叙開。長得。上。喜。於。山。後。西。  
之。及。

上。関。上。岩。信。信。

四月

律。大。手。上。至。為。殿。  
庭。内。茶。室。烟。處。

早。秋。涼。涼。之。久。今。春。吟。泉。  
仍。使。方。於。常。欣。意。

叙。開。之。水。

竹。感。投。之。水。地。喜。喜。為。小。

中。海。也。之。及。

上。関。上。岩。信。信。

四月

友。信。信。奏。

早。秋。涼。涼。之。久。今。春。吟。泉。

仍。使。方。於。常。欣。意。

先。月。中。七。

山。上。京。京。出。年。之。分。

法。之。之。之。上。上。之。而。之。之。年。

山。池。之。之。而。之。之。之。之。之。

既。開。生。之。之。之。之。之。之。之。及。

上。関。上。岩。信。信。

四月

東。園。和。清。信。殿。



山北之序之入今之身  
是丸入の家を續け給を  
作給し而大に喜給也  
之縁及之止之縁

四月

有谷之在也

山北之序之入今之身

有谷之在也

山北之序之入今之身

有谷之在也

山北之序之入今之身

六月

佛光寺

專修寺 無二寺 蓮花光院  
右の寺也 右の寺有修唯門に

あり也

有葉流孫の山北之序之入今之身

大政而の序之入今之身

山北之序之入今之身

山北之序之入今之身

山北之序之入今之身

山北之序之入今之身

六月

井の  
阿念  
久世  
山北之序之入今之身



法一海之

皇朝政務令今夏

物軍 宜年 而徑提 公宜吉

皇朝政務令今夏

皇朝政務令今夏

上國以忠信治之

九月

御旨尾大則之

津山中則之

儀奏 貴令前津則之

石井之任之

石井之任之

年始以後始之

為年始以後始之

禁高哀 御旨尾大則之

御旨尾大則之

御旨尾大則之

四月

水部初承之

初年右軍之

御旨尾大則之

御旨尾大則之

御旨尾大則之

三月十八日



水野和泉之反

平家之反後、  
何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

何事身後、  
何事身後、  
何事身後、

見山州海、山家代、  
御言、  
御言、  
御言、

御言、  
御言、  
御言、

御言、  
御言、  
御言、

御言、  
御言、  
御言、

御言、  
御言、  
御言、

御言、  
御言、  
御言、

二月

桃尚  
切使渡

因有

御言、  
御言、  
御言、

御言、  
御言、  
御言、

御言、  
御言、  
御言、



出物之流之...

四月

功德院

日光寺...

御宮...

...

...

四月

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



御金給ひ申上り候事  
申上り申上り候事  
申上り申上り候事

五月

水師御書度

抄書奉り申上り候事

一巻之巻物申上り候事

抄書奉り申上り候事

御書奉り申上り候事

右付候事申上り候事

六月

水師御書度

抄書奉り申上り候事

次郎御

一巻之巻物

有書渡候事申上り候事

右付候事申上り候事

御書奉り申上り候事

抄書奉り申上り候事

御書奉り申上り候事

上書奉り申上り候事

右付候事申上り候事

七月

水師御書度

抄書奉り申上り候事

一巻之巻物



公方極意節減雖則歲時  
之有也其以文至方惟  
辨於山以年以公以  
之政裁之之修

七月

水也相水也

次東

山也之相水也

將軍 宰 山徑極也

是法好也

慶國且也

十之三 初修也

山中

法也後也  
三也入也  
三也入也

九月

水也相水也

刺類

一也也也  
有也也也  
刺類也也  
仍也也也

九月

水也相水也



回

一筆之居小增上字

有章隨處以傳教

物類而致息言山脈

卷元上下左右如年

至之至遊山為受業及

上國山經物

法望以深官務以公

至思公山右任五之三

中入之之修

十月

建德抄卷

身政而之山脈抄卷

郭書之卷之抄卷

公方標之山脈抄卷

元日二二三品表

出即山山山山山山山

論士來始之山山山山

百強之山山山山山

山山山山山山山山

山山山山山山山山

四月三日

西院路抄卷

山山山山山山山

山山山山山山山

抄



决死抄

去二日、山崎、是言之、抄、

如、水、新、事、之、廣、聖、神、事、

公、答、林、高、山、神、事、

年、始、一、臨、山、神、事、

其、後、多、志、之、神、事、

林、事、山、行、方、山、事、

志、事、山、事、

二、條、山、事、

面、山、事、

物、神、山、事、

三、山、事、

之、事、

四月

水野抄

决死抄

旧、服、事、去、二、日、山、神、事、

之、抄、山、神、事、

抄、事、

公、答、林、高、山、神、事、

年、始、一、臨、山、神、事、

其、後、多、志、之、神、事、

林、事、山、行、方、山、事、

志、事、山、事、

二、條、山、事、

面、山、事、

物、神、山、事、

三、山、事、

之、事、



二月

吉野城 内夜多者宿屋

口津津 波之内津津屋

口津津 松平大内宿屋

口津津 松平大内宿屋 延元時辰 文子御幸

以雨御

一巻之十

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

二月

行卷字

吉野城 内夜多者宿屋

口津津 波之内津津屋

口津津 松平大内宿屋

口津津 松平大内宿屋

以雨御

一巻之十

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰

公方松平高直御時辰







昔より其の御用の中御用  
御用は成程保元平治の  
之者御用の中御用

正月

片名子

招平御用

二條の事ありて其の御用

一先之御用

公方御用は御用は御用

二先之御用は御用

三先之御用は御用

百文の御用は御用

三月

水也招平御用

二條の事ありて其の御用

一先之御用

公方御用は御用は御用

二先之御用は御用

三先之御用は御用

百文の御用は御用

門下御用は御用

三月

片名子

酒井御用

招平御用

右取寄御用

一先之御用



公孫樹... 海... 一  
一の... 大... 一  
七... 一  
百...

八月

水野...

日文...

一日...

八月

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

八月

...

...

...

...



大坂の事代々休む事あり

一 名守之務り

公方様意の御書地御書地あり  
のり年事お文之代為御書  
御書地山御書地 水也之務  
御書地あり  
御書地代々御書地あり  
御書地あり

二月

西尾御書地  
御書地あり  
御書地あり  
御書地あり

去後  
如書

吉宿ありあり

一 名守之務り

公方様意の御書地御書地あり  
のり年事お文之代為御書  
御書地御書地御書地御書地  
御書地御書地御書地御書地

三月

片右之

長尾御書地

御書地御書地御書地御書地

一 名守之務り御書地御書地

御書地御書地御書地御書地

御書地御書地御書地御書地



多細也...  
...  
...

二月

鐵田...  
...

正德...  
...

山...  
...

公...  
...

名...  
...

山...  
...

林...  
...

小...  
...

山...  
...

林...  
...

天...  
...

山...  
...

上...  
...

山...  
...

二月

山...  
...

山...  
...

公...  
...

山...  
...



廿二 院集 修 於

法皇御高料理を御覧

ありしに御覧ありし

宸務 山形再行の難事

由を言ひ御覧ありし及喜

ありしに

全二月

阿部氏の御覧

山形再行の難事

公方御覧の御覧ありしに

及喜ありしに御覧ありしに

及喜ありしに御覧ありしに

山形

山形再行の難事

及喜ありしに御覧ありしに

及喜ありしに御覧ありしに

及喜ありしに

全二月

阿部氏の御覧

山形再行の難事

及喜ありしに御覧ありしに

及喜ありしに御覧ありしに

及喜ありしに御覧ありしに

及喜ありしに御覧ありしに



時服於此... 頂戴... 然國元... 係身... 右... 所... 以... 九月

字相  
松平如百身殿

一... 公... 以... 以... 以...

其... 關... 依

上... 三月

松平如百身殿

白... 公... 之... 以... 自... 之... 然... 然... 然...



以川上久島甚悪本古治之能  
三石の石精一石の石を治す

山紙

竹紙。七

古紙。入念の治すをう

山紙。山紙。山紙。

十月

中津 松平藩書局

手紙の書 山紙の書

公書松平藩書局に  
為松平藩書局に  
山紙の書

上関の松平藩書局

この松平藩書局

松平藩書局の書

山紙

十月

松平藩書局

山紙の書

山紙の書

松平藩書局の書

山紙の書

松平藩書局の書

山紙の書



御月見

後身の時夜頃哉 年々  
難くはしむる言ふ立有る  
外なる少孔の便に在る  
三年末の事始者之類  
有るはしむる言ふ立有る  
御月見  
右の事入念の所は年々  
名は清く

六月

中書  
松平信濃守

御月見

四月の御月見  
公方林業の御月見  
山寺の御月見  
平の御月見  
難の御月見  
外なる御月見  
三年末の御月見  
有る御月見  
御月見  
右の御月見  
名は清く

六月

侍從  
松平安永守



高氣 印身身身

至方病氣之股

上國少壯時時在至下

上言言時時為時

七月

供好大旺美皮

五三

山中之校

至言時時為時

為時時時時時

中服之時馬時時

非之時時時時

到之時時時時

三掛于劍之時時

先時時時時

十月

北平海海

五三

山中之時時

公言時時時

為時時時時

中服之時時

非之時時時

到之時時時



果山拾遺書卷上  
一 修行儀則

五月

南朝大務書房

五言  
少壯之時  
公孫柱立  
若此之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時

七月

松平信吉書

五言  
山中拾遺  
公孫柱立  
若此之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時  
此心之時

七月

西尾監政書



在是... 即... 西... 爲... 作... 也...

至... 友... 爲... 林... 大... 西... 爲... 者...

作... 有... 以... 誠... 子... 在... 使... 者... 疾...

用... 意... 乞... 事... 所... 有... 之... 以... 子... 之...

三... 年... 秋... 少... 事... 治... 何... 之... 始...

所... 之... 年... 建... 佛... 所... 是... 又... 之...

作... 有... 之... 事... 之... 以... 子... 之... 始...

二月

西尾... 陸... 守... 友...

長... 信... 爲... 書... 松... 平... 井... 林... 終...

作... 有... 之... 事... 之... 以... 子... 之... 始...

那... 者... 之... 首... 之... 之... 心... 之... 動... 機... 靈...

石... 質... 天... 大... 因... 未... 結... 實... 破... 之... 後...

上... 房... 也... 若... 之... 若... 出... 聖... 之... 因...

但... 錄... 也... 上... 之... 之... 之... 之... 始...

二月

松... 平... 北... 前... 之... 友...

文... 禮... 以... 事... 動... 也... 之... 之... 始...

出... 於... 之... 始... 之... 始...

公... 善... 林... 善... 高... 誠... 謙... 在... 子... 之... 始...

名... 在... 心... 在... 心... 入... 事... 親... 始... 之... 始...

以... 信... 也... 之... 始... 之... 始...

上... 國... 花... 山... 之... 事... 始... 之... 始...



山脈之南... 以後之政事書

後者... 存心之德

二月

倍極  
松平伯耆守

山脈之南

公孫孫... 政事書

公孫孫... 政事書

公孫孫... 政事書

公孫孫... 政事書

十月

後  
松平伯耆守

高柳

山脈之南

公孫孫... 政事書

公孫孫... 政事書

公孫孫... 政事書

上國... 政事書

公孫孫... 政事書

公孫孫... 政事書

十月

倍極  
松平伯耆守

山脈之南

公孫孫... 政事書



之役... 新... 時...

之役... 新... 時...

上... 之役...

之役...

之役...

之役...

二月

後 細川...

之役...

之役...

之役...

其... 之役...

二月

之役...

阿... 之役...

之役...

之役...

之役...

之役...

之役...

十月

之役...



西園之西之書屋後之

山中之山

公等極其喜悅

必使此山能知又言觀時時

必使此山能知又言觀時時

上園之西園之西之書

後之山

仍當以余之書

二月

若書之書

之書在書中為所及上書之節  
海中之山

一書之書

公等極其喜悅

必使此山能知又言觀時時

必使此山能知又言觀時時

上書之書

上書之書

九月

招年籍及後

御書之書

公等極其喜悅

必使此山能知又言觀時時

必使此山能知又言觀時時

尾張國日光寺

御書之書

公等極其喜悅

必使此山能知又言觀時時

必使此山能知又言觀時時



彼山

山宮山... 山宮山... 山宮山...

修... 修... 修...

山... 山... 山...

上... 上... 上...

之... 之... 之...

六月

河村... 河村... 河村...

城... 城... 城...

以上

武... 武... 武...

古... 古... 古...

山... 山... 山...

門... 門... 門...

日... 日... 日...

升... 升... 升...

西... 西... 西...

山... 山... 山...

田... 田... 田...

招... 招... 招...

信... 信... 信...

乙... 乙... 乙...

三... 三... 三...

七... 七... 七...

政... 政... 政...

阿... 阿... 阿...

考... 考... 考...



園所流文

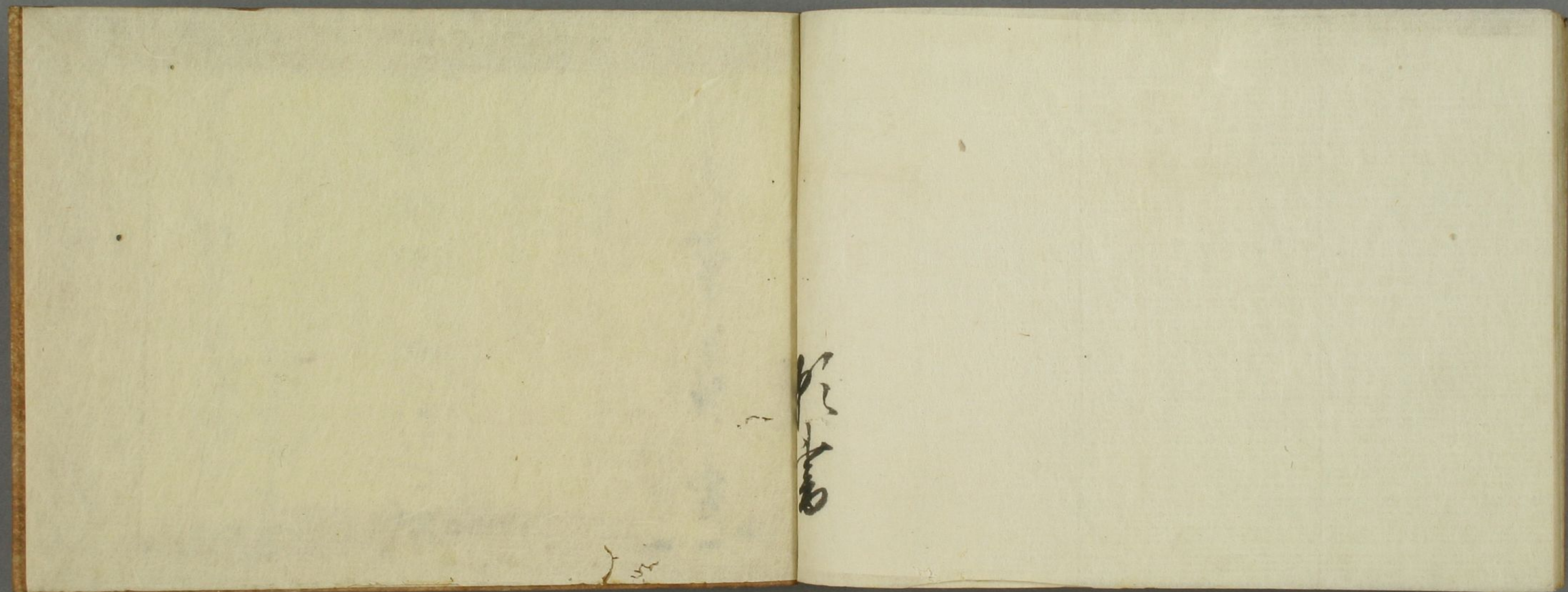
功行大服更如立作之而此  
其名為者為因式求了  
丁此紙以方解中云云以穿  
園所下在周之也

寺  
七月廿五日 河内

寺  
中田 園所流文







Handwritten characters in the gutter, possibly '12' or '13'.

Small handwritten mark or characters at the bottom of the left page.



